第４分科会　研究課題「学校の組織・運営に関する課題」

研究主題　「あらゆるハラスメントのない職場づくり

～コンプライアンス推進上の教頭の役割を考えて～」

延岡支会　延岡市立南浦中学校　小林　美和子

１　主題設定の理由

ハラスメントを予防することは、子供の人権を守ること、教員の生活を守ることにつながる。では、どうすれば、勤務校からハラスメントがなくなるのか。

ここ１０年間の宮崎県内の不祥事件数は平成２３年度２７件から令和２年度４件と激減している。校内コンプライアンス研修を重ねてきた教頭として、そのことには安堵する。しかし、量定別発生状況では「免職」事案が１０年間で一度もゼロの年はない。また、令和３年度に延岡市で２件起こったわいせつ行為事案に関しては、過去１０年間の中で１年間に２件も起こったことがない。これは気を引き締める事案である。

このわいせつ行為が本市だけでなく全国で大きな課題になっていることは、令和３年５月「教職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」が制定されたことでも分かる。

そこで、教員の信頼が失われ、ハラスメント行為によって仲間を失うことを避けるために、教頭としてさらにコンプライアンスを推進することが重要になると考え、本主題を設定した。

２　研究のねらい

各中学校の現状を把握し、研修方法等を教頭会で研究することを通して、コンプライアンス意識を高め、あらゆるハラスメントのない職場づくりを目指す。

３　研究の概要と成果

(1) 研究の仮説

各校のコンプライアンスチェックシートを考察し、高評価Ａが１００％に近づくような研修方法を実践することで、集団のコンプライアンスに対する意識が高まり、ハラスメントがなくなるであろう。。

(2) 研究の実践

① コンプライアンスチェックシートの考察

令和３年８月に調査した 14 校 292 名の教職員が高い意識のもと遵守しているのは「ライセンスの更新」である。

反対に意識が低いのは、「個人情報」と「交通法規の遵守」になる。「交通法規の遵守」においては、自家用車通勤者が多く、命に関わる重要な項目であるが、自分が不祥事を起こすことはないという慢心もあるのかもしれない。

実はすべての項目でＡが１００％にはなっていないことがわかった。教職員の自己評価に差があるのも事実であるが、自信をもって１００％と言える教職員にするための教頭としての役割が不可欠である。

令和３年度　チェックシート前期集計【１４校２９２名】

Ａ：よくあてはまる　Ｂ：少しあてはまる　Ｃ：あまりあてはまらない　Ｄ：全くあてはまらない

	項目	内　容	A		B		C		D	
1	身体的接触	不必要な身体的接触や性的なからかい・冗談など、相手の嫌がるセクハラは絶対に行わない	272	93.2%	20	6.8%		0.0%		0.0%
2	ライセンス	運転免許や教員免許の更新を確実に行う	289	99.0%	3	1.0%		0.0%		0.0%
3	飲酒	飲酒の際は、翌朝お酒が残らないように、飲む量には十分注意し、飲み会には、車で行かないように努める	266	91.1%	26	8.9%		0.0%		0.0%
4	人間関係	職場の人間関係を良好に保ち、精神的・身体的苦痛を与えるハラスメントは絶対に行わない	255	87.3%	35	12.0%	2	0.7%		0.0%
5	個人情報	スマホ・タブレット等に児童生徒の写真や成績等の個人情報は入れず、情報モラルをしっかり守る	207	70.9%	72	24.7%	13	4.5%		0.0%
6	体罰・暴言	殴る・胸ぐらをつかむ・押し倒す等の体罰や感情的な暴言を吐くことは、いかなる場合も行わない	234	80.1%	52	17.8%	6	2.1%		0.0%
7	ＳＮＳ	ＳＮＳ等で、児童生徒との私的メールのやりとりは原則として行わず、相談は学校での直接面接で行う。	284	97.3%	8	2.7%		0.0%		0.0%
8	予算	予算失効や給食費・部活動費の金銭の出し入れにおいて、現金を一人で管理しない	266	91.1%	25	8.6%	1	0.3%		0.0%
9	運転	車を運転する際には、交通法規を遵守し、交通事故・違反を起こさないように十分注意する	212	72.6%	76	26.0%	3	1.0%	1	0.3%

【資料１コンプライアンスチェックシート集計】

② 高評価Ａを１００％にする取組

ア　教職員としての仕事に対する誇りを高める

自らの仕事に対する誇りや使命感の向上がコンプライアンスを意識させることにつながる。そのために、日常から全体の奉仕者である公務員として相応しい行動に賞賛やねぎらいを行い、気概を高める。

イ　当事者意識をもつための研修方法

「自分も不祥事を起こし得る」という意識と、「自分の職場から不祥事を起こさせない」という意識を醸成するために、心や行動に響くような研修方法を模索する。まず、教頭会にて高評価Ａを目指す項目を絞ることとした。話し合いの結果、①身体的接触②ライセンス③SNS に重きを置いた研修方法について研究・実践することとした。

【研修の実践例】

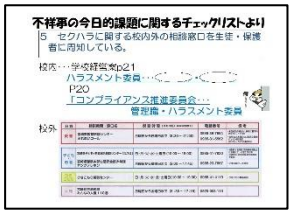
○ワークショップ①　「ルールを守るために」

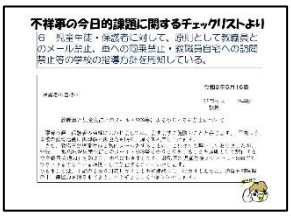
ルールを守れない理由を行動経済学より考え、県内で起きたわいせつ事案の問題点と対策をグループワークで話し合う。

最後にコンプライアンスのためにできることと大切なことをまとめ、職員室に掲示した。

○ワークショップ②

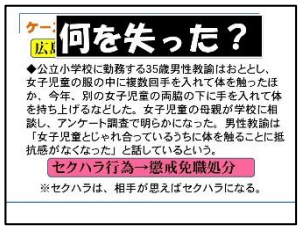
「コンプライアンスに対する知識を増やそう」





6月に行った「不祥事の今日的課題に関するチェックリスト」の項目で伝達した知識が残っていないことがわかった。そこで、記憶に残るようクイズ形式で問うことにした。楽しみながら、知識を増やすことができた。

○ワークショップ③「人生は選択の連続だ！」



毎日の何気ない生活・行動の中での意思決定の中で、誤った選択肢が優先されることがある。選択とは「何を得るかより、何を失うか」を考えるかことが大事であることをワークショップで気づかせる。コンプライアンスの観点から「これをしなければ何をしていただろう」と選択肢を意識的に見直して、意志決定には結果と責任が伴うことを学ぶことができた。

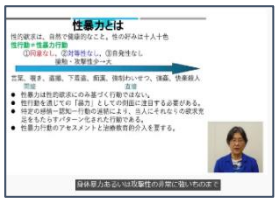
○ワークショップ④「不祥事の類型化」

岡山県教委の資料をもとに、学習不足、自己中心、確信犯など新たな視点による不祥事の分類を行うことで、当事者意識を醸成することができた。

ウ　不祥事防止に必要な知識を得る

不祥事に関する知識を得ることで、不祥事を「しない」「させない」ために適切な行動ができるようにする。

【実践例】



概要：児童生徒性暴力等の特徴（性暴力等の類型、加害者の思考の誤り等）について解説するもの

【講師：藤岡淳子氏　　大阪大学大学院名誉教授
一般社団法人「もふもふネット」代表理事】

令和４年６月３日付「児童生徒性暴力等の防止等に関する理解を深めるための動画の活用について（通知）」で紹介のあった≪児童生徒性暴力等の特徴について≫の動画を視聴した。性暴力等の意味を理解することができた。

エ　常時、意識するための各校の取り組み

研修だけにとどまらず、日頃からコンプライアンスを意識するための取組を行う。

○　「しんらいにこたえよう」９項目を模造紙に拡大し、職員室の内側のドアに貼り、常に目にするようにした。

○　教員免許一覧、運転免許一覧を作成し、校長と教頭で確認し、期限が近くなってきた職員に声をかけ、更新した場合には本人・校長・教頭で確認を行っている。

○　コンプライアンス推進委員会で決めた「生徒へのセクハラ・わいせつ行為防止宣言」５項目を模造紙に拡大し、職員室後方に貼り、常に目にするようにした。

○　生徒・保護者へメール・ＳＮＳ等による教職員とのやりとりは、連絡許可証を提出するようにした。

4　今後の課題

令和４年度　チェックシート前期集計【　１３校２２７名　】

Ａ：よくあてはまる　Ｂ：少しあてはまる　Ｃ：あまりあてはまらない　Ｄ：全くあてはまらない

	項目	内　容	A		B		C		D	
1	身体的接触	不必要な身体的接触や性的なからかい・冗談など、相手の嫌がるセクハラは絶対に行わない	224	98.7%	3	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
2	ライセンス	運転免許や教員免許の更新を確実に行う	225	99.6%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
3	飲酒	飲酒の際は、翌朝お酒が残らないように、飲む量には十分注意し、飲み会には、車で行かないように努める	217	95.6%	10	4.4%	0	0.0%	0	0.0%
4	人間関係	職場の人間関係を良好に保ち、精神的・身体的苦痛を与えるハラスメントは絶対に行わない	219	96.5%	8	3.5%	0	0.0%	0	0.0%
5	個人情報	スマホ・タブレット等に児童生徒の写真や成績等の個人情報は入れず、情報モラルをしっかり守る	182	80.2%	39	17.2%	5	2.2%	1	0.4%
6	体罰・暴言	殴る・胸ぐらをつかむ・押し倒す等の体罰や感情的な暴言を吐くことは、いかなる場合も行わない	208	91.6%	19	8.4%	0	0.0%	0	0.0%
7	SNS	ＳＮＳ等で、児童生徒との私的メールのやりとりは原則として行わず、相談は学校での直接面談で行う	226	99.6%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
8	予算	予算執行や給食費・部活動費の金銭の出し入れにおいて、現金を一人で管理しない	220	96.9%	6	2.6%	1	0.4%	0	0.0%
9	運転	車を運転する際には、交通法規を遵守し、交通事故・違反を起こさないように十分注意する	194	85.5%	32	14.1%	1	0.4%	0	0.0%

本年度は、項目１・２・７の評価を 100%にすることに着目して取り組んだが、全体的なコンプライアンスの意識向上を図ることができた。今後も引き続き各学校において研修を続け、さらなる向上につなげることが求められる。